手をつなごう2007

平成20年2月18日
岡山県立東備養護学校
支援部だより NO. 32

ネットワーク合同会議開催！

２月１３日､この冬一番の寒さという悪条件の中、多くのメンバーが集まってくださいました。今回は県のｻﾎﾟｰﾄ事業の「備前地域特別支援連携協議会」も兼ねて実施しましたので、全体会では、連携協議会のメンバーである吉利宗久先生、安東節子先生からご提言をいただくことができました。

提言 特別支援ネットワーク構築の意義と今後の課題

岡山大学教育学部准教授　吉利宗久先生

地域支援の動向、連携の必要性についてお話くださった後、今後のネットワーク発展のための確認事項として次の点を挙げられました。

・よりよい連携を進めていくための個別の支援計画の活用
・目的の明確化・情報の共有
・対応の手順・流れの明確化（窓口・手続きなど）
・関係者の役割・確認・共通理解（用語の問題も含めて）
・一貫性・統一性（価値観の共有・確認事項を押さえ、次の会議に）
・対等な関係と柔軟性（開催場所を変えていく等、顔を合わせて）
・連絡の質と量
・お互いの立場の尊重とねぎらい

また、課題として次の点を挙げられました。

・各機関の間にある隙間をいかに補うか。隙間の子どもたちに対応するシステムの構築
・何か起きた時の連携だけではなくて、日常の連携の大切さ
・実務者レベルでの相談
・事例検討会等の定期開催
・連携の評価
・外部機関との連携の前提として、各機関内での連携が大切

臨床心理士　安東節子先生

・教育長、医療関係者の参加しているネットワークもある。
このネットワークならではの独自性、良さを生かして欲しい。
・医療関係者の参加が望まれる。
・高等学校を卒業した発達障害のある方が、どこに相談に行けばいいかわからなかったという事例を耳にしたことがある。このネットワークの広報活をさらにしていって欲しい。
・相談者は肩書きなどでは判断せず、どんな人かがわかってから相談する気持ちになる。支援者もお互いを知り合うことが大切。